

1 取組目標に関する自己評価

(1) 学習指導

- ①「学びの基盤」プロジェクト研究協力校として、読解力の向上、自ら学ぶ力の育成を意識した授業を実施する。
- ②生徒の授業満足度を一層高めるために、学力スタンダードの分析に基づく授業、主体的・対話的で深い学びを目指した授業、生徒一人一台端末体制を見据えたICT機器を活用した授業、学んだことを取り入れた授業、教員相互の授業見学を実施する。
- ③学習習慣を身に付けるため、教科・学年等が連携して週末課題を課し、自主学習時間を伸長する。
- ④「生徒による授業評価」を検証・分析をし、授業力向上を図る。
- ⑤グランドデザインを基にした教育課程を構築し、学習評価の改善を図る。
- ⑥図書館の蔵書を充実させ、生徒が本に親しむ環境を整備する。

<自己評価>

読解力の向上及び自ら学ぶ力の育成を目指した授業を教員全員が実施した。1学年で実施した論理言語力検定では、情報理解力（読解力）が全国平均よりは低いものの2年前には全国平均よりも10点低かったが、今回は4点低い結果となり、やや改善できた。読解力に力を入れた授業の成果であると思われる。自主学習時間は、日常的に課題等を課すことにより平日60分以上の生徒が64%であり、目標はほぼ達成できた。しかし、生徒の学力向上は道半ばであり、授業改善に引き続き取り組むとともに、ICT機器を有効活用することを推進する必要がある。特進クラス及び希望者を対象とした土曜講習については新型コロナウイルスの影響で実施できない回があった。方向性、実施方法、実施内容について校内でコンセンサスを取る必要がある。外部機関による「生徒による授業評価」は教員の授業に対する意識づけに効果があったものと思われる。また、図書館の蔵書を充実させることで本の貸出冊数は目標を超える冊数となった。

<学校評価アンケート結果>

主体的に学習に取り組んでいる生徒 57%

教科書や試験問題をきちんと読んで取り組んでいる生徒 72%

教員が学力をつける授業をしてくれていると感じている生徒 80%

(2) 進路指導

- ①3年間の系統的なキャリア教育を推進し、進路指導部と学年が連携し、組織的かつ系統的な進路指導を行う。特に、特進クラスの生徒への受験指導の充実を図る。
- ②「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」を活用し、生徒の進路意識を高める。
- ③土曜講習、授業以外の講習等を実施し、大学受験に対応した学力を醸成する。
- ④多様化した生徒のニーズに応えるために進路情報の収集を行い、キャリア教育研修を実施する。

<自己評価>

生徒が希望する進路を実現するために学年と進路指導部、各教科が連携して進路指導を進めた。昨年度から指定校推薦を希望する生徒が増えているが、この傾向については学校として検証し、今後の板橋高校の進路指導について校内で検討する必要があると思われる。来年度についても社会的・職業的自立支援教育プログラム事業等を利用して低学年のうちから進路について意識させることを実行していく。

<学校評価アンケート結果>

進路の実現につながる指導を行ってくれていると感じている生徒 78%

進路の実現につながる指導を行ってくれていると感じている保護者 69%

(3)生活指導

①都立高校生活指導指針に基づいた生活指導を行い、生徒の規範意識を育成する。

②校内研修やいじめアンケートの実施、いじめ対策・特別支援委員会の定期開催によりいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め、スクールカウンセラーと連携して自殺防止教育を推進する。

③一貫した服装指導を中心とした身だしなみ指導、遅刻指導等を行う。

④自転車運転指導を中心とした交通安全指導、SNSに関する指導を中心とした生活安全指導を行う。

<自己評価>

身だしなみ指導及び遅刻指導、自転車指導については生徒部を中心として毎朝実施し、成果をあげていると考えている。また、遅刻率が昨年度の3.7%から2.8%に低下し時間を意識した行動をとる生徒が増加している傾向にある一方遅刻を繰り返す生徒もあり、継続的な指導が必要と思われる。いじめ対策・特別支援委員会をスクールカウンセラーと連携をとりながら定例的に開催し、生徒の状況をきめ細やかに把握し、担任及び学年団と共有している。教育相談体制を充実することにより、いじめ防止や特別支援教育の推進につながっていると思われる。

<学校評価アンケート結果>

高校生としてふさわしい身だしなみができていると感じている保護者 90%

遅刻をしないように、時間を守る努力をしている生徒 88%

(4)保健指導・防災教育

①スクールカウンセラー、養護教諭、教育相談担当教員を中心とした教育相談体制を充実する。

②学校医との連携を強化し、新型コロナ感染症拡大防止対策、心身の健康づくりを推進する。

③関係機関と連携した防災教育を推進する。

④校内清掃等美化活動に一層力を入れ、学習環境を整える。

<自己評価>

昨年度に引き続き教育相談体制を充実することができ、定期的ないじめ・特別支援教育委員会の開催を始め、スクールカウンセラーと教員との連携を深めた。新型コロナ感染症対策については学校医と相談しながら養護教諭が中心となって推進をした。昨年度より教室内からゴミ箱を撤去したが、校内にゴミが散乱することはなく、生徒もゴミを持ち帰る習慣ができていることから、来年度以降もゴミ箱不設置を継続していく。

<学校評価アンケート結果>

相談したいときに気軽に相談できる先生がいると感じている生徒 63%

(5)学校行事・部活動・地域連携等

①生徒が主体的に活躍でき、達成感を得ることができ、自尊感情が高まる学校行事を実施する。

②部活動の推進に向けて、部活動加入率を増加させるとともに部活動の成果発信を積極的に行う。

③「アクティブプラン to2020」に基づき、体育の授業を充実させ、生徒の体力向上を図る。

④地域貢献等を通してボランティアマインドを醸成するなど、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。

<自己評価>

新型コロナ感染症の影響により、従前の学校行事を行うことができなかったことから、学校行事・生徒会活動が充実していると感じている生徒の割合が例年よりも低い傾向にある。来年度に向けても行事ができないときの代替行事の充実が必要ではないかと考える。来年度についてもアクティブプランに基づき、生徒の体力向上に努めたい。また、陸上部が高校総体に出場するなど一定の成果をあげたが、その他の部活動の情報発信がやや低調であり、HPの更新回数が少なかったことは反省すべき点である。来

年度からはHPがリニューアルすることから更なる部活動の情報発信を進めていきたい。

<学校評価アンケート結果>

学校行事・生徒会活動が充実していると感じている生徒 57%

部活動が充実していると感じている生徒 79%

学校は地域の意見や要望を取り入れたり、適切に対処していると思っている地域の方 31%

(6) 学校運営

- ①企画調整会議を学校組織の中心に据え、教職員が一体となった学校運営をする。
- ②生徒募集の広報活動、学校見学会、学校説明会を充実させ、入学者選抜倍率を維持する。
- ③学校ホームページをリニューアルし、学校の情報発信を積極的に行う。
- ④様々な機会を捉えて、教育職員と企画室職員の連携・協力を推進する。
- ⑤教育環境の整備・充実に向けて、自律経営推進予算の適正に執行する。
- ⑥「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、部活動指導員等の配置や効率的な会議等の在り方を検討し、教職員のライフワーク・バランスを推進する。
- ⑦サービス事故防止に向けた研修を実施し、サービス事故を根絶する。

<自己評価>

コロナ禍による制限がある中で説明会等を完全予約制にするなど募集対策は順調に進めることができた。しかし、昨年度の学力検査に基づく選抜の応募倍率が高かったことからその反動として今年度は低調であった。職員会議の効率的な運営により会議時間を勤務時間内に終了することができた。また、機会あるごとにサービス事故防止の啓蒙をすることでサービス事故を0件とした。自立経営予算は適正に執行できたが、コロナ感染症の関係で学校執行が多くなりセンター執行割合が低い結果となった。

<学校評価アンケート結果>

学校は保護者と十分に連携を図っていると思っている教職員 79%

2 数値目標達成状況

- (1)-①「学びの基盤プロジェクト」に基づく研究授業を4回以上実施する。→6回実施
- (1)-②日々の授業改善により生徒の授業満足度を75%以上、外部模試GTZをC2以上とする。
→生徒の授業満足度 80%、外部模試GTZ C3
- (1)-③土曜講習の実施や週末課題、小テスト等を課すことにより生徒の自主学習時間平日1日1時間以上の割合を60%以上とする。→自主学習時間平日1時間以上の生徒の割合 64%
- (1)-⑥購入図書の精選、図書館便りの発行等により年間の本の貸し出し数を4000冊以上とする。
→年間貸出数 5015冊
- (2)-①生徒一人一人に寄り添う進路指導や土曜講習の実施により4年制大学進学率50%以上、日東駒専以上の現役合格を15名以上、卒業時の進路決定率を90%以上とする。
→4年制大学進学率45%、日東駒専以上の現役合格9名、卒業時の進路決定率89%
- (2)-③大学受験に対応した土曜講習の実施により、のべ参加者数を3000名以上とする。
→土曜講習には1年生48名、2年生53名が参加。新型コロナウイルスの影響で13回実施予定のところ8回の実施
- (3)-③毎朝の登校時指導等により遅刻者を6.0%以下とする。→遅刻率2.8%
- (3)-④交通安全指導を丁寧に行うことで、生徒の登下校時の自転車事故を0件とする。→0件
- (4)-③消防署と連携し、上級救命講習1年生生徒が全員受講する。→12月に実施し1年生全員が受講
- (5)-②部活動ができる環境整備を推進し、生徒の部活動加入率を65%以上とする。→加入率70%
- (5)-⑤部活動や学校行事等について発信し、ホームページの更新回数を180回以上とする。
→ホームページ更新回数 79回
- (6)-②学校見学会・学校説明会の開催方法の工夫により、学校見学会・学校説明会への参加者数を1500名以上、入試対策講座の開催を1回以上、学力検査に基づく選抜の倍率を1.50倍以上とする。

→学校見学会・学校説明会の参加者数 1039名、学力検査に基づく選抜の倍率 1.31倍

(6)-④計画的な予算の執行により自立経営推進予算の一般需用費センター執行割合を60%以上とする。

→一般需用費センター執行割合 45%

(6)-⑥学期ごとに年3回の研修実施により服務事故を0件とする。

→3回研修を実施、服務事故0件

3 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

<課題>

教員の授業力向上、学年・教科の連携、学習意欲が高まる授業の実施と学びの基盤プロジェクトによる「読解力」及び「自ら学ぶ力」を育成すること。

<対応策>

- ・「学びの基盤プロジェクト」研究協力校として読解力、自ら学ぶ力を育成する。
- ・新学習指導要領による新しい教育課程に応じた教科マネジメントを徹底する。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れるとともに生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を取り入れた授業を展開する。
- ・一人一台端末を有効に活用した授業を推進する。
- ・JET、ALTを活用し、英語教育の改善充実を図る。
- ・土曜講習、長期休業日の講習等の在り方や方法を見直すことにより、進路実績に繋げる。
- ・週末課題や学習課題等を課すことで自主学習時間を伸長する。
- ・教科会、教科主任会定例開催を目指す。
- ・図書館を読書センター、学習センター、情報センターとして機能させる。
- ・言語活動の充実のために授業での活用を通して図書館の利用拡大し、読書活動を推進する。

(2) 進路指導

<課題>

生徒が希望する進路を実現するための進路指導を推進しているが、指定校推薦を希望している生徒が増加傾向にあり、今後の進路指導の方向性を検討する必要がある。

<対応策>

- ・生徒一人一人の進路実現に向けて進路指導部と学年・教科、担任と保護者との連携を強化するとともに、生徒一人一人の情報(学習・生活・進路希望等)の共有化を図る。
- ・小論文指導、志望理由書指導、看護体験、保育園実習等を組織的継続的に実施する。
- ・大学進学にあたっては、一般選抜以外にも総合型選抜や公募制推薦選抜の利用を推進する。
- ・社会的・職業的自立支援教育プログラム事業を活用した進路指導を行う。

(3) 生活指導

<課題>

板橋高校の生活指導について、教職員が一貫した姿勢で取り組むこと。

<対応策>

- ・規範意識を醸成するために生徒部を中心として全教職員が一貫した遅刻指導、挨拶指導、身だしなみ指導を継続する。
- ・交通安全指導、特に自転車の乗り方指導を徹底する。
- ・集会やLHR等の機会を捉えて、SNS使用ルールを徹底する。
- ・スクールカウンセラーとの連携を深化させ、不登校・中途退学防止に向けた教育相談体制を充実する。

(4) 防災教育・保健指導

<課題>

コロナ後の防災教育について構築すること。養護教諭を中心とした保健指導を推進すること。

<対応策>

- ・教室にゴミ箱を設置せず、ゴミの持ち帰り指導、清掃活動の徹底で校内美化を推進する。

- ・保健指導については、生徒の保健委員会を活用する。
- ・防災教育を継続・充実し、防災訓練を実施する。

(5) 学校行事・部活動・地域連携

<課題>

コロナ後の学校行事・部活動・地域連携の新たな在り方を構築すること。部活動に関する情報は発信が不足していること。

<対応策>

- ・陸上部の Sport-Science Promotion Club 指定を核として部活動の充実、部活動加入率向上を図る。
- ・部活動や体育授業等を通して体力の更なる向上を図る。
- ・生徒の自尊感情を高めるための学習活動、学校行事、部活動の在り方を検討する。
- ・リニューアルしたホームページを大いに活用し、部活動情報、募集対策情報などの情報発信に努める。
- ・防災訓練等で地域との連携を深める。

(6) 学校運営

<課題>

募集対策を工夫することで、入選倍率を向上させること。効率的な企画調整会議、主幹会議を運営すること。効果のある予算執行をすること。教育職員と企画室職員の意思疎通を図ること。

<対応策>

- ・企画調整会議で分掌・学年を超え、学校改革の戦略を検討する。
- ・主幹会議で方策の検討、企画調整会議に提案することで主幹教諭5名の連携・協力体制を構築する
- ・募集対策として夏季休業日中の学校案内、外部説明会参加、入試対策講座、部活動体験、上級学校訪問対応等を行う。
- ・教育職員と企画室職員の連携を深め、適切な予算執行、施設・設備の整備等円滑な学校運営を推進する。